

コンクリートの性質 演習2（フレッシュコンクリート）

1. 以下の用語(1)~(4)の説明として正しいものをそれぞれ選べ。

(1)コンシステンシー (2)ワーカビリティ (3)プラスティシティー (4)フィニッシュアビリティ

用語の説明文

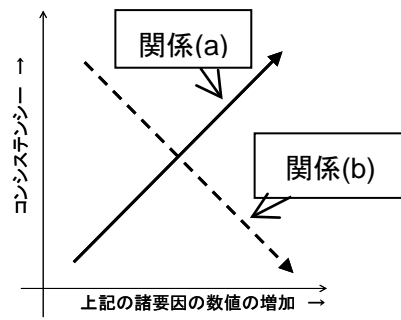
- a. 粗骨材の最大寸法、細骨材率、細骨材の性質、コンシステンシー等による仕上げの容易さを示すフレッシュコンクリートの性質。
- b. コンシステンシーおよび材料分離に対する抵抗性の程度によって定まるフレッシュコンクリート、フレッシュモルタルまたはフレッシュペーストの性質であって、運搬、打込み、締固め、仕上げなどの作業の容易さを表す。
- c. 変形あるいは流動に対する抵抗性の程度で表されるフレッシュコンクリート、フレッシュモルタルまたはフレッシュペーストの性質
- d. 容易に型に詰めることができ、型を取り去るとゆっくり形を変えるが、くずれたり、材料が分離したりすることのないような、フレッシュコンクリートの性質。

2. 以下の問題文の正誤を判定せよ。問題文が適切あるいは正しい場合は○を、不適切あるいは誤りの場合は×を解答用紙に記せ。

- (1) AE 剤の使用量を一定としたコンクリートの場合、セメントの比表面積を大きくすると、空気量は減少する。
- (2) AE 剤の使用量を一定としたコンクリートの場合、単位セメント量が多くなると、空気量は増加する。
- (3) AE 剤の使用量を一定としたコンクリートの場合、コンクリートを振動締固めすると、空気量は増加する。
- (4) AE 剤の使用量を一定としたコンクリートの場合、コンクリートの練上がり温度が低くなると、空気量は減少する。
- (5) フライアッシュを用いると、AE 剤の使用量が多くなる。
- (6) AE 剤を用いると、硬化コンクリートの気泡間隔係数は大きくなる。
- (7) セメントの粉末度が高いほど、ブリーディングの量は減少する。
- (8) 細骨材の粒度が細かいほど、ブリーディングの量は減少する。
- (9) スランプが小さいほど、ブリーディングの量は減少する。
- (10) 打込み高さが高いほど、ブリーディングの量は減少する。
- (11) 水セメント比を大きくすると、材料分離は生じやすくなる。
- (12) 締固めを過度に行うと、ブリーディング量は多くなる。
- (13) 単位水量を大きくすると、沈みひび割れが発生しやすくなる。
- (14) コンクリートの硬化前に、打込み面表面に鉄筋の位置に沿って発生するひび割れは、沈みひび割れである。

- (15) スランプを大きく設定すると、単位水量が増加し、所要の強度を得るための単位セメント量は増加する。
- (16) 粉末度の大きいセメントを用いるほど粘性が増し、スランプは大きくなる。
- (17) 練上がり温度が高いほど、同一スランプを得るための単位水量は多くなる。
- (18) 運搬によりスランプの低下が生じたコンクリートに水を加えてスランプを回復させると、コンクリートの強度が低下する。
- (19) 材料分離に抵抗する性質は、ワーカビリティーに関係する。
- (20) エントラップトエアは、練混ぜ時にコンクリート中に連行された 30~3000 μm 程度の空気泡であり、ワーカビリティーの改善に役立つ。
- (21) コンクリートのスランプ試験方法では、ほぼ等しい高さの 3 層に分けて試料を詰めた後、コーンを引き上げてコンクリートの中央部の高さを測定し、スランプ値とした。
- (22) 振動台コンシステンシー試験によって測定されるフレッシュコンクリートの沈下度の単位は cm である。
- (23) AE 剤の使用は、ブリーディング量を低減するのに効果的である。
- (24) レイタンスは、コンクリートの打込み後、内部の微細な粒子がブリーディングにともなって浮上し、コンクリートの表面に沈積したものであり、強度も付着力も極めて小さい。
- (25) 一般に AE コンクリートの空気量は、練上がり温度 13°C の方が、練上がり温度 23°C のものより多い。
- (26) 粗骨材の最大寸法を大きくすると、流動性が増す。
- (27) AE 剤や減水剤を使用すると、流動性が増す。
- (28) セメントを粉末度の高いものに変更すると、流動性が増す。
- (29) 単位セメント量を多くすると、プラスチックティーターが増す。
- (30) 空気量を小さくすると、スランプは小さくなる。
- (31) 細骨材の粗粒率が大きくなると、スランプは小さくなる。
- (32) 粗骨材の粒形判定実積率が大きくなると、スランプは小さくなる。
- (33) コンクリートの温度が低くなると、スランプは小さくなる。
- (34) ブリーディング量が多いコンクリートを打ち込むと、水平鉄筋の下側に空隙が生じたり、鉄筋に沿ったひび割れが生じやすい。
- (35) 鉄筋の上部の位置に発生した沈みひび割れは、コンクリートの凝結開始後に、タンピングや再仕上げを行って取り除くことができる。
- (36) 単位水量を大きくすると、材料分離は生じにくくなる。
- (37) 細骨材率を小さくすると、材料分離は生じにくくなる。
- (38) 水セメント比を小さくすると、材料分離は生じにくくなる。
- (39) 空気量を小さくすると、材料分離は生じにくくなる。
- (40) 振動台コンシステンシー試験は、舗装コンクリートのような硬練りコンクリートの変形あるいは流動に対する抵抗性の程度の評価に用いられる。

3. コンクリートのコンシステンシーに影響を与える要因に関して、下図のような関係を示す要因すべてを、以下の要因群から選べ（要因群の要因すべてが関係(a)、(b)のどちらかに分類される）。



要因群：

単位水量、空気量、セメントの粉末度、コンクリート温度、骨材の粗粒率、細骨材率

以上